公募シンポジウム S-19

MY TREE 母親・父親プログラムによる虐待的言動からの回復

12月10日(土)14:10〜15:40 第14会場(福岡国際会議場 5F 502)

企画者：平尾 恭子（関西医療大学）
発表者：田崎 良美（福岡市こども総合相談センター）
尾上 由恵（福岡市こども総合相談センター）
坂口 淑子（橋本市子育て世代包括支援センター）
中川 和子（一般社団法人MY TREE）

キーワード：父親・母親支援　親の回復　エンパワメント

企画趣旨

目黒女児虐待事件(2018年)および野田女児虐待事件(2019年)は、いずれも父親によるDVと子どもへの暴力により幼い命が奪われ、私たちに大きな衝撃を与えた。専門職による支援が入っていても親自身が変わらなければ、子どもへの暴力は家庭の中で繰り返される。親へのアプローチとして、ペアレンティング・プログラムが全国各地で実施されているが、参加者の多くは母親であり、父親が継続して参加することの課題は大きい。

MY TREEペアレンツ・プログラムは親の全体性の回復を目的として、2001年に森田ゆり氏によって開発され、以来21年間で約1400人の母親が様々なストレスや抑圧によるダメージから回復し、虐待的言動を終止し、子どもとの関係を修復してきた。さらに、昨年度は父親を対象とするプログラムが開発、試行され、父親の内面の変化と回復が見られた。

本シンポジウムでは、子育て世代包括支援センターおよび児童相談所の取り組みと課題について共有し、親の回復を支援することの意義と可能性について検討したい。

発表にあたっては個人情報保護等の倫理的配慮を十分に行う。COIに関する利益相反はありません。

抄録

発表１：保健と福祉の統合による児童虐待予防への取組み　　坂口淑子(橋本市子育て世代包括支援センター所長)

橋本市では、平成29年度より子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から子育て期(18歳)までの切れ目のない支援を実施してきた。子育ての総合相談窓口として明確に打ち出したことで、保護者からの相談だけでなく様々な関係各課・機関からの相談を受けている。平成31年度には大きな機構改革があり、子育て世代包括支援センターが課に昇格し、虐待やＤＶ、発達相談部門も同じ課となり、より一層連携が密になった。子どもに関わる専門職を一つにまとめたことで、支援家庭を総合的に見る事ができ、その後のアセスメントやアプローチの幅が広がったことで、今までの支援の課題が払拭できるよい機会となっている。

虐待家庭に特定妊婦として妊娠早期から関わる中で、また、他の家庭に思春期から関わる中で、保護者のしんどさに先に寄り添わない限り、支援は進まないと感じることが多々ある。個々の家庭を専門職が支援することも大切であるが、専門職ができることには限界がある。保護者自身が回復し、子どもと向き合い、自身の力で子育てできるようになっていくための支援の必要性を感じている。

発表２：全体性の回復をもたらす　〜MY TREEペアレンツ・プログラム〜　　中川和子(一般社団法人MY TREE代表)

MY TREEペアレンツ・プログラム®(以下MY TREE)は、虐待に至ってしまった親の回復プログラムである。子ども虐待とはこれまで人として尊重されなかった痛みや悲しみを怒りの形で子どもに爆発させている行動である。

MY TREEは「感情、身体、理性、魂の全てに働きかけて、木や太陽や風や雲からも生命力の源をもらうという人間本来のごく自然な感覚を取り戻します。さらに自分の苦しみに涙してくれる仲間がいるという、人と繋がれることの喜びは、本来誰でもが内にもつ健康に生きる力を輝かせるのです。・・・」(引用リーフレット)

構造化された学びの13セッションと、マインドフル瞑想による脳トレの習慣づけ、対話力とエンパワメント支援の徹底訓練を受けた実践者の関わりによって修了生の多くが虐待的言動を止めることに成功している。

2001年に森田ゆりによって開発され、これまで20年間の実践で約1400名の修了生を送りだしてきた。新たに開発した父親プログラムを、今年度から関西と関東で開催し、母親プログラム同様に全国に広げていく。

発表３：福岡市児童相談所が実施するMY TREEペアレンツ・プログラム　　田崎良美、尾上由恵（福岡市こども総合相談センター）

親への支援を行うことは児童相談所の果たすべき重要な役割である。福岡市こども総合相談センターでは、親の養育支援事業として、虐待行為のある親への養育支援と虐待の再発防止を目的としたMYTREEの実践を行い３年目に突入した。対象は、児童相談所および各区の子ども家庭総合拠点にて相談対応している家庭である。事業の運営及び実践は児童相談所職員が行っている。プログラムを受けることで、参加者は子育てに関する様々なスキルと気づきを得ていった。

プログラムを重ねる中で参加者が子供への対応や考え方について次々と気づきを得て変化していく様は、実践者としても驚きの連続であった。プログラム終了後は相談意欲が向上し、各相談機関の力を借りるようになった家庭もある。通所指導をする中で、プログラムを受ける以前よりも助言指導が伝わりやすくなっていると感想を述べる支援者もいる。

本発表では、福岡市児童相談所での実践と参加者の変化を紹介する。また、児童相談所がMYTREEプログラムの実践を行うことが、虐待行為のある親への支援にどのように寄与していくのか、今後の展望を含めて報告する。

発表４：MY TREEペアレンツ・プログラム参加者の変化と回復　　平尾恭子（関西医療大学）

私が出会うプログラム参加者は、保健センターや家庭児童相談室、児童相談所といった保健・福祉機関の紹介ケースから案内チラシを見て自主的に参加する者まで、また、日常的に体罰や暴言を使ってしまう者からそうでない者まで様々である。しかし、どの親も子どもとの関係を良好なものに変えていきたいと、切実な思いをもってプログラムに参加される。

参加者は約3か月間、自分の内面を深く見つめるツールを学び、「自分に正直」というルールの下、自分について語ることで子どもとの関係を客観視し、暴力や暴言によって傷つけてしまった子どもの気持ちに気づいていく。毎回行う15〜20分の瞑想とボディワークを自身の生活に取り入れること、グループの中で参加者自身が尊重されることを通して子どもへの怒りの感情をコントロールできるようになり、ネガティブな感情を手放し、本来の自分を取り戻していく。

シンポジウムでは、MY TREEペアレンツ・プログラムに参加する母親および父親の変化・回復について公衆衛生の視点からの一考を報告する。